

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673200309
法人名	社会福祉法人 幾久栄会
事業所名	グループホーム こうらく
訪問調査日	平成 20 年 1 月 8 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 5 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	673200309
法人名	社会福祉法人 幾久栄会
事業所名	グループホーム こうらく
所在地 (電話番号)	山形県酒田市小泉字前田44番地 (電 話) 0234-64-3704

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年1月8日	評価確定日	平成20年3月5日

【情報提供票より】(平成19年11月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 29 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	9 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 8.7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設／○単独	新築／改築
建物構造	木造平屋 造り	
	階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 1,000円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月23日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	2 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	87.2 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	酒田市立八幡病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域から依頼を受けた介護講座の開設、中学生・老人クラブ・婦人会のボランティアの受け入れなどが活発に行われ、春から秋までの間はボランティアが玄関に花を毎日飾ってくれることにより、心和む交流のひとつを季節感を味わいながら送ることができています。
職員は現状に満足することなく、利用者の立場・目線・気持ちになって新たな課題について話し合い、すべての面での更なるレベルアップを目指しており、隣接する同法人の各事業所や公立病院と連携を図りながら、病院長を講師とした研修についての取り組みも行われているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しの際に、個人記録のパソコン入力や家族への連絡に時間がかかり、計画見直しの時期が遅れをきたしてしまう点に関しては、早めに取り組むようにしたため遅れることはなくなった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	意義やねらいについて職員間で話し合い、職員全員で約1ヶ月の時間をかけて自己評価を行っており、評価を改善に活かす取り組みも行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催されており、他グループホームや多機能施設の見学希望が会議で出された際にも、すぐに応える取り組みが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会での視察や芋煮会等の行事等とおして、話しやすい環境づくりを心がけており、日頃から意見が出てくるように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として、地域行事に積極的に参加したり、訪問してもらったりしており、体験学習や婦人会、老人クラブ等のボランティアも多数訪れ、幅広い交流が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域のために力をつくします」という理念を基にして、ホーム理念への落とし込みと見直しをしている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「地域の中で地域のために」を目指し、管理者と職員が現状に満足することなく、さらに高いレベルでの利用者へのサービス提供に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、地域行事に積極的に参加したり、訪問してもらったりしており、体験学習や婦人会、老人クラブ等のボランティアも多数訪れ、幅広い交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義やねらいについて職員間で話し合い、職員全員で約1ヶ月の時間をかけて自己評価を行っており、評価を改善に活かす取り組みも行われている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催されており、他グループホームや多機能施設の見学希望が会議で出された際にも、すぐに応える取り組みが行われている。		

山形県 グループホームこうらく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域で介護予防講座をホームとして開催したり、実習生の受け入れ等で市福祉課と話し合う機会も多い。また、市連絡協議会の中のグループホーム部門で研修会等のやりとりも多く、十分な連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の広報誌の送付は、身元引き受け人だけではなく希望する親族にも送付している。面会時での話し合いや受診時での様子を伝えたり、金銭や通帳、小遣い帳の確認も行っている。職員の異動は、広報誌に顔写真入りで行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での視察や芋煮会等の行事等とおして、話しやすい環境づくりを心がけており、日頃から意見が出てくるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を継続するため、異動は最小限に努めているが、異動時には申し送りを細かく行い、影響ができるだけ少なくなるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で年間研修計画を作成しており、ホームもそれに基づいて実施している。外部・内部研修も数多く機会の確保を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士での交換研修、グループホーム研修会、市連絡協議会での学習会や交流等とおして、質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から、料理や昔の話を聞いたりしながら学んだり、職員の悩みや心配事の相談にのってもらったりする等、支えあいながら生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式と包括的自立支援プログラムを併用して、本人の思いや意向の把握に努めている。意志疎通の困難な利用者は、家族やまわりからの情報と本人の毎日の生活からくみ取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族に事前に意向を確認し、職員会議で検討して計画を作成しており、出来上がった介護計画は、家族や本人にもう一度確認してもらうようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態が変化したり、本人・家族からの要望があった時は、その都度話し合って介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医は、本人及び家族の希望で決めており、 家族とも協力しながら、通院やサービス利用前から受け ている訪問診療を受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	「重度化に関する指針」の説明を、サービス利用開始 時に本人や家族に行っており、「看取り」に関する職員 研修も隣接している医療機関の病院長を講師として全 職員が受けている。また、最後の看取りまで行うことを 確認している利用者は、現在2名いる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	入職時に、全職員がプライバシーや個人情報について の守秘義務の誓約書を取り交わし、徹底に努めてい る。日常生活での声かけや対応、記録の保管につい ても配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮しながら個人のペースを大切に して、希望に添ったその日の過ごし方を、個別的に支 援するように努めている。		

山形県 グループホームこうらく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から調理・後片付けまで、利用者個々の状況に応じて一緒に行うようにしている。餅、鍋物、すき焼き等利用者の好みや希望を取り入れながら、楽しい食事となるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により、毎日及び夜間でも入浴している。また、医師の指示で入浴できない時は、足浴や清拭等を行うようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、家事、園芸などの役割や楽しみごとが設けられており、「刺し子」「刺繍」などの趣味活動もボランティア等の援助を受けながら楽しく行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望により、買い物や散歩、ドライブなど、できるだけ外に出られる機会を設けるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	職員の勤務に合わせて、朝5時から夜の10時半まで鍵はかけておらず、利用者が外に出る時は職員が付き添い、一緒に散歩やドライブをするようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携をとりながら年6回の防災訓練を行っており、ホーム近くの住民(十数名)の方には防災協力員も依頼している。また、夜間訓練は特別養護老人ホームと合同で行われており、利用者と職員分の防災頭巾、非常食、停電時の明かりの準備もされている。		

山形県 グループホームこうらく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームに隣接する、特別養護老人ホームの管理栄養士が作成した献立を参考にしての栄養バランスの考慮と、食事摂取一覧表を活用した摂取量の確認を行っている。また、夏場の多めの水分摂取や体重測定の毎月実施など、利用者の体調管理にも努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、手作りの作品や習字、写真、押し花、パッチワーク等が飾られ、季節感にあふれ楽しく過ごせるように工夫している。また、冬場を除き、ボランティアが玄関に花を毎日飾ってくれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭から持ってきた家具や日用品、写真や手作りの作品が居室内に飾られ、居心地よく落ち着いて過ごせる居室となっている。		